

アジア・キリスト教・多元性

第22号

巻頭言

キリシタン時代とイエズス会宣教師 芦名定道 (01)

論文

女性協働者たちの無教会運動——皆川とし子の煩悶・求道と〈信仰＝研究〉系キリスト教——
..... 赤江達也 (07)

随想

東西思想の統合——西田哲学の「絶対無の場所」とロヨラのイグナチオの「霊操の不偏心」の類似性——
..... 高橋勝幸 (35)

活動報告 (49)

あとがき 芦名定道 (50)

2024年3月

「アジア・キリスト教・多元性」研究会

研究会の活動内容（2023 年度） *すべての研究会をオンライン形式（Zoom Meeting）で開催

第 213 回・研究会

日時：2023 年 5 月 21 日（日曜）

総会：「アジア・キリスト教・多元性」研究会・2022 年度総会の開催

第 214 回・研究会

日 時：2023 年 9 月 4 日（月曜）

合評会：役重善洋会員（同志社大学人文科学研究所嘱託研究員）

〔合評論文〕赤江達也会員（関西学院大学社会学部教授）

「内村鑑三と塚本虎二はなぜ分離したのか——宗教思想運動における継承の問題」
（『アジア・キリスト教・多元性』第 21 号、21-39 頁に収載）

第 215 回・研究会

日時：2023 年 11 月 18 日（土曜）

発題者：芦名定道会員（関西学院大学神学部教授 / 京都大学名誉教授）

「研究動向から + 研究の提案」

第 216 回・研究会

日 時：2023 年 12 月 22 日（金曜）

発題者：洪 伊杓 会員（山梨英和大学准教授）

「関東大震災に対する日韓キリスト教知識人の認識と対応」

第 217 回・研究会

日 時：2024 年 1 月 20 日（土曜）

発表者：高橋勝幸会員（元・南山宗教文化研究所非常勤研究員）

研究発表「東西思想の統合——西田哲学の「絶対無の場所」とロヨラのイグナチオの〈霊操の不偏心〉の類似性」

◆『アジア・キリスト教・多元性』第22号をお届けいたします。

本研究会誌は、「アジア・キリスト教・多元性」研究会の研究活動報告論文集として刊行され、本研究会の前身となる旧「アジア・日本のキリスト教と宗教的多元性」研究会の研究ジャーナルから通算して第22号（23冊）となりました。第22号は、執筆の方々はもちろん、研究会での議論に参加いただいたメンバーの方々、特に、編集担当者に全面的な協力をいただくことによって、無事に刊行することができました。この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。

なお、第22号も、電子ジャーナルとして研究会ホームページと京都大学学術情報リポジトリにおいて公開されますので、コピーなどの必要な方は、これらをご利用ください。

◆2023年度の研究会の活動の詳細については、この22号に収録された「研究会の活動内容（2023年度）」また研究会ホームページに記載された通りですが、新型コロナウイルス感染拡大への対応として、2020年度から引き続き、オンライン（zoom）で研究会を開催しました。2024年度についても、毎月の定例の研究会は、オンラインを中心に実施することになると思います。オンライン研究会にはハワイや韓国在住の方をはじめ遠方の方々に参加いただくことが可能であり、定例の研究会の開催形態として相応しいとの理由からです。いずれにせよ、今後の研究会の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

◆本研究会の2024年度総会の日程は未定ですが（例年は5月の連休前後に開催）、総会では、2024年度の役員などの選出に加えて、研究会の活動のあり方についても協議されることとなります。研究会の担当者として、研究会のいっそうの活性化を期待しています。

◆2023年度も、毎月の研究会には新しいメンバーが加わりました。総会で、自己紹介をお願いする予定です。

◆本研究会はメンバー個人の研究発表の場であるのと同時に、さまざまな共同研究が企画される場でもあります。2023年度には、たとえば本研究会メンバーを中心に次のような共同の研究活動が実施されました（必ずしも本研究会を意識しているわけではありませんが）。

・『福音と世界』2023.8（新教出版社）の特集「戦争の時代に平和を問う」には2名の本研究会の関係の方に執筆いただき、2023.11の特集「東アジアにおけるキリスト教の可能性」では5名の方々に執筆いただきました。

・国際日本文化研究センターのシンポジウム「日本宗教・思想文化の接合域と多面性を考える——「他者」とどのように向き合ったのか」（2023年3月23～24日）には、本研究会から複数のメンバーが参加しました。

これらのほかに、日韓の研究者の共同研究を2024年度からスタートさせるための計画も進行中です。具体化した際には、みなさまにも、ご案内したいと思います。以上はいずれも本研究会の活動ではありませんが、研究会から生まれた、あるいは研究会に関連した研究ネットワークであり、今後の展開が楽しみです。

この第22号の冒頭には、巻頭言として「キリシタン時代とイエズス会宣教師」という文章を掲載しましたが、これは宣教師の活動を中心とした共同研究の提案を意図しています。この点につきましても、ご意見などをいただければと思います。

◆今後とも、本研究会のために、各方面からのご協力を賜りますよう、よろしく、お願い申し上げます。

2024年3月

研究会・研究活動担当

芦名 定道

ASIA CHRISTIANITY DIVERSITY

XXII

CONTENTS

Preface

Kirishitan Era and Jesuit missionaries

..... ASHINA Sadamichi (01)

Articles

Female Co-workers of the Non-church Movement: Minagawa Toshiko's Anguish and Seeking,
and the "Devotional=Studious" Christianity AKAE Tatsuya (07)

Essay

Toward a Unification of Eastern and Western Thought: An Examination of Analogs in Nishida's
"Place of Absolute Nothingness" and Loyola's Holy Indifference in the *Spiritual Exercises*

..... TAKAHASHI Katsuyuki (35)

Activity Report (49)

Postscript ASHINA Sadamichi (50)

March, 2024

Study Group for Christianity and Diversity in Asia
Kyoto Japan

ISSN 2432-1796